

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(尾鷲高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		・未来を切り拓く、しなやかな人間力を備えた鷲高人の育成
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・さまざまなことに興味をもち、自ら学ぼうとする「主体性」 ・自分が興味をもったことを突き詰める「探究力」 ・他者とのつながりを大切にし、他者から学び、互いを認め合う「寛容さ」 ・「主体性」、「探究力」、「寛容さ」を支える「健やかな心身」
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	・生徒一人ひとりを大切に想い、生徒の気持ちに寄り添う教職員 ・「目指す学校の姿」を共通目標として、自らの考えを言語化し、伝え合える教職員 ・自らが範となり、「育みたい資質・能力」を醸成すべく、自己研鑽に取り組む教職員 ・自分の興味、関心、知識、経験を活かして、意欲的に学校運営に貢献する教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 よくわかり参画意欲の高まる授業 一人ひとりがあるのまの自分が認められているという実感を持ち、安心して学校生活を送ることができる学校環境 【保護者・地域】 進路希望の実現 地域を支えるリーダーとなる人材の育成	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	【保護者】 基礎学力の向上、自己実現に向けた進路指導 【中学校】 高校生活を通して成長し、自らの目標を実現していく生徒の育成 【地域】 地域に興味、関心をもつ生徒の育成	【保護者】 教育活動への理解や協力 【中学校】 尾鷲高校への進学に向けた連携 ともに子どもの成長を支援するための情報共有 【地域】 教育活動への支援と協力

(3)前年度の学校関係者評価など		・「働くこと」や「自立すること」への意識付けを徹底して行ってほしい。 ・尾鷲高校生に限らず、子どもの読解力は低下している。読書週間を設けるなど、改善に努めてほしい。 ・企業が求める高校生像との乖離については、企業の理念もあり、学校だけではどうにもならない。考えをすり合わせ、埋め合わせていくしかない。 ・服装などについては大きく乱れているとは感じない。マナーや身だしなみがなぜ必要なのかということをさらにしっかり理解させてほしい。 ・地域には今後新しい産業が興る可能性もある。既存の地元企業と合わせ、これらを紹介することで地域と連携した学習を推進することもできるのではないか。 ・データ管理の徹底は重要だが、問題は管理する場所でなく管理の在り方である。 ・総勤務時間の縮減目標はぜひ達成してほしい。 ・働き方改革を進める一方で地域と連携した時間外の取組にも一定の意義がある。職員の負担を軽減しつつ、これら連携が進められるとよい。
(4)現状と課題	教育活動	・尾鷲高校生に「主体性」、「探究力」、「寛容さ」、「健やかな心身」をどのように身につけさせ、社会に送り出すのか、再度確認する必要がある。そのうえで、授業改善や探究学習のブラッシュアップを行っていきけるとよい。 ・学校と地域が連携するにあたり、学校はどのような生徒を育みたいのか、地域は将来を担うどのような人材を育みたいか、対話を通して互いの考えを共有する必要がある。
	学校運営等	・紀北地域唯一の県立高等学校として、地域の子ども、保護者の期待に応えうる学びの在り方について検討し、その結果に基づいた学び等を提供することにより志願者を増加させていくことが急務である。 ・総勤務時間縮減に向け、業務の見直しを再度行う必要がある。必要な業務を精選し、ワークライフバランスの取れた働き方につなげる必要がある。 ・データ管理の在り方について、管理方法等を人任せにせず自分事として、職員が共通理解をしておく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・基礎的、基本的な学力の定着と、主体的に学ぶ態度の育成を図り、「主体的・対話的で深い学び」と「探究活動」を意識した授業を充実させる。 ・「総合的な探究の時間」と「課題研究」をとおして、答えのない問いに対する自分なりの考えを導く探究力を養う。 ・あらゆる指導において対話を重視し、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。 ・社会人として生活していくための基本的なマナー、生活習慣、人権感覚、命を大切にする心、他者と認め合う心を育成する。
学校運営等	・業務の効率化を進め、教職員の総勤務時間縮減に取り組むことで、教職員と生徒がかかわる時間を確保する。 ・教職員のスキルアップのための校内研修を定期的実施する。 ・教職員間の対話を大切に、同じ目標に向けて教職員一丸となって日々の業務に取り組む。 ・教職員それぞれの強みや経験を活かし、意欲的に業務に取り組めるよう業務分担を行う。 ・本校に関わる活動の様子を保護者や中学校、地域に積極的に発信する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・意欲的に学業に取り組むことができる生徒 ・規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 ・部活動、生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に取り組むことができる生徒 ・お互いを認め、尊重しあい、協働して学校生活を送ることができる生徒
-------------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体性を育む授業・探究力の育成に向けて	・授業改善研修や「総合的な探究の時間」のブラッシュアップ、関係機関(市町や三重大学等)との連携などを通じて、生徒自ら考えることを尊重した授業づくりを目指す。 ・授業時間を確保するため、年間自習時間数を155時間以内に収める。 ・文化祭や体育祭等の学校行事を通じて、生徒の主体性や責任感を育てる。		◎
希望進路の実現に向けたキャリア教育	・各学年と連携するとともに、対話を重視し、生徒個々の進路実現及び自己実現に向けた意識の向上を図るため、各学年の段階に応じ、それぞれの希望進路に関する説明会等を実施する。 【活動指標】 ・3年生進学希望者:年間5回 ・3年生就職希望者:年間4回 ・2年生:学校・企業見学会年間1回 ・1・2年生:進路別ガイダンス年間2回 【成果指標】 ・3年生進学希望者第一志望合格率70%以上 ・3年生就職希望者学校斡旋による就職内定率90%		
実業系学科(情報ビジネス科・システム工学科)の特色ある学びの充実	(情報ビジネス科) ・各種検定合格に向け積極的に取り組むことを支援する。 ・地域の保育園をはじめ、地域との交流を図り社会体験を充実させる。 ・卒業後、起業する人物を育む一環としてパソコンの活用力を高められるよう指導する。		

	(システム工学科) ・工業に関連する資格取得を目指した教科指導・支援を充実させる。 ・地域産業と連携した学習を推進するため、DXハイスクール事業を活用した地域産業(甘夏加工品)の製品開発を目指す。		
互いを認め合う寛容さを育むことを目指した人権教育の充実	・人権学習等を公開するとともに、学習後の意見交換を通じて人権学習等のブラッシュアップを図り、生徒が自他の人権を守るための実践行動ができる力を育む。		
「主体性」「探究力」「寛容さ」を支えるための「健やかな心身」を育む	・挨拶や言葉遣いなどのコミュニケーション力や社会人としてのマナーの向上を図るため、朝のあいさつ運動や各集会や授業等での身だしなみ指導を徹底する。 ・生徒に関する情報をこまめに共有することで、生徒の状況に応じた指導、面談、保護者との連携を進める。 ・健康診断だけでなくいのちの講演会の実施や生徒保健委員会の活動等をとおして、生徒が健やかな心身を育むための保健教育の充実を図る。 ・自己肯定感を育むことを支援するため、教育相談体制を充実させるとともに、支援が必要な生徒に係る情報共有や支援体制づくりに努める。 ・しなやかな人間力育成を目指し、レジリエンス事業のプログラムに取り組む。 ・安心・安全に学校生活を送ることができるよう、年3回の大掃除や学校環境デーの取組、「お守り言葉・励まし言葉」を掲示するなど、学校美化・衛生・安全面の整備を進める。		◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体性を育む授業・探究力の育成に向けて	・生徒の主体性を育むための授業を目指した、授業力向上研修を実施する。 ・関係機関と連携した「探究力」向上に係る職員研修を実施する。		◎
互いを認め合う寛容さを育むことを目指した人権教育の充実	・生徒が自他の人権を守るための実践行動力を身につけられるとともに、教育活動全体を通じた人権教育を教職員が実践できるよう、教職員向け人権研修を実施する。		
「主体性」「探究力」「寛容さ」を支えるための「健やかな心身」を育む	・生徒に寄り添う力を高めるための教職員向けレジリエンス研修を実施する。 ・教職員自らが生徒の範となり、健やかな心身を醸成する教職員像の実現に向け、救急法講習会等を実施する。 ・丁寧な生徒支援に向け、中学校訪問や情報交換会、特別支援教育に関する教職員研修を実施する。		
地域連携・情報発信の充実	・日々の学校の様子を発信することにより、地域の方に学校を理解してもらうとともに、その理解をもとにした地域連携を進める。 ・DX/ハイスクール事業をはじめとした、地域関係機関との連携を推進する。		
信頼される学校・選ばれる学校を目指す	・個人情報の取扱いやコンプライアンスに関する研修を定期的に実施する。 ・学校の情報を地域の中学校長会や進路担当者会議等で発信し、本校の魅力を伝えることで、地域の中학생から愛され、選ばれる学校を目指す。		◎
総勤務時間の縮減	【取組内容】 業務の精選・効率化・平準化を進め、時間外労働の縮減を図る。また、教職員の休暇取得を促進する。 【成果指標】 ・長期休業中に閉校日を計3日設け、いずれの日も80%以上の教職員が終日休暇を取得する。 ・月1回程度の定時退校日を設け、80%以上の教職員が定時退校する。 ・すべての部活動が週1回以上の休養日を設ける。 ・放課後に行う会議の70%以上を60分以内に終了する。		◎

	・4～12月の休暇(年休・特別休暇)の取得日数を一人平均15日以上とする。 ・1人あたり時間外労働時間を月平均30時間以下にする。 ・月45時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする。 ・年360時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする(4～1月の10か月間で300時間超となった人数を換算して検証する)。		
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
--------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)